

東京喰種のアニメで使った曲の英訳は、日本語の歌詞の意味と比べるとどう変わったか。

## **How were English translations different from the Japanese lyrics of Tokyo Ghoul songs?**

サバー・カシヤ  
**Sabah Qasir**

82-373 Structure of the Japanese Language

### 1. はじめに

このプロジェクトで、東京喰種のアニメで使った曲の英訳した歌詞と日本語の歌詞を比較する。英語の曲の歌詞と日本語の曲の歌詞の内容と表すことを比べると違いがたくさんあると思うから、日本語の歌詞を英訳する方はどうか考えて調べたかった。

このプロジェクトで比較する歌は TK from 凛として時雨の「unravel」と amazarashiの「季節は次々死んでいく」だ。この二つの曲は東京喰種のアニメで使われたから聞いて気に入った。このアニメが好きじゃなかったけど、東京喰種の漫画家が自身で好きな歌手に頼まれたから意味は漫画の内容に似合うと思っていて好きになった。この歌の日本語の歌詞と英訳を比べるために、Funimationがアップした英語のサブタイトルが付いた曲のビデオを使う。

### 2. 日英語比較

#### 2. 1. 「unravel」の日英語の違いの分類と説明

### 第一例 (Tokyo Ghoul-Opening Theme, 0:58)

When <u>I found you</u> , it shook me	<u>あなたを見つけて</u> 揺れて
---------------------------------------	---------------------

この例文に、日本語では「あなたを見つけて」と言ったけど、英訳すると「I found you」になった。つまり、日本語は省略言語だが、英語は非省略言語だ。日本語の歌詞で、「私はあなたを見つけて」と言わなくてもいいけど、英語で「I found」と言うしかない。それ以外、この例文に、英訳では「I found」とか「shook me」と言ったけど、日本語では「私」を言わない。つまり、英語は人間中心だが、日本語は状況中心だ。もう一つの違いがあって、それは英語で「it shook me」と言う無生物主語があって、日本語で、自動詞が使ったから主語は「私が揺れて」になる。

### 第二例 (Tokyo Ghoul-Opening Theme, 1:01)

In this <u>twisted world</u> ,	<u>歪んだ世界</u> に
--------------------------------	----------------

この例文に、日本語では「歪んだ世界」と言ったけど、英訳すると「twisted world」になった。この場合には、日本語の歌詞で自動詞を使ったが、英語でパッシブな他動詞を使った。例えば、別の言い方で、日本語の文は「世界が歪んだ」と言う SV-type 自動詞的文になるけど、英語の文は「The world is twisted」と言うパッシブな SOV-type 他動詞文になる。

### 第三例 (Tokyo Ghoul-Opening Theme, 1:16)

<u>I don't wish to hurt you in a world</u>	<u>誰かが描いた世界</u> の中で
<u>Of someone else's imagining</u>	あなたを <u>傷つけたくはないよ</u>

この例文に、日本語では「傷つけたくはない」と言ったけど、英訳すると「I don't wish to hurt」になった。この文の違うところは、日本語は主語には人称制限があるけど、英語の主語にはない。つまり、日本語で、「傷つけたくはない」と言ったから、「～た

くない」だから自分のことだと分かる。でも、英語は主語には人称制限がないから、英訳すると「I don't wish to hurt」しか言えない。

この例文にはもう一つ違いがある。日本語で「誰かが描いた世界」という部分は英訳したと「a world of someone else's imagining」になった。つまり、日本語は動詞的な言語だから「描いた世界」と言うけど、英語は名詞的な言語だから「world of...imagining」と言う。

## 2. 2. 「季節は次々死んでいく」の日英語の違いの分類と説明

### 第一例 (Tokyo Ghoul √A - Ending Theme - Kisetsu wa Tsugitsugi Shinde Iku, 0:30)

A <u>sober man</u> in a bustling city	色めく町の <u>酔えない男</u>
---------------------------------------	--------------------

この例文に、日本語では「酔えない男」と言ったけど、英語では「a sober man」と言う。日本語で動詞的な表現を使ったが、英訳すると形容詞的な表現になった。つまり、日本語のような動詞的な言語で「酔えない」と言う動詞は「男」を説明するけど、英訳の「sober」と言う形容詞を使って主語を説明して違う。

### 第二例 (Tokyo Ghoul √A - Ending Theme - Kisetsu wa Tsugitsugi Shinde Iku, 0:38)

<u>It's as though I'm living as a translucent shadow,</u>  Unsure if I can still call who I am me	僕が僕と呼ぶには不確かな  半透明な影が <u>生きてる風だ</u>
---	--

この例文の違いは語順だ。日本語の歌詞では「生きてる風だ」という結論は最後だが、英訳した歌詞では「It's as though I'm living」という結論は最初におなった。日本語の語順は変わりやすいから、動詞の前にどんな順番でも正しいけど、英語で SVO-type 順番しか使わない。

## 3. おわりに

日英語に色々な違いがあった。例えば、日本語は省略言語だが英語は非省略言語だから、日本語で主語を言わなくても、英語で主語を言うのは必要だ。他の違いは日本語で自動詞を使うところに英語で他動詞を使う事とか、日本語で動詞を使うところに英語で名詞を使う事だ。英語のサブタイトルがある日本語のビデオを見る時に特に気づく違いは、日本語の語順は英語の語順と違うことだ。例えば、英語では一般的に主語-動詞-目的語で文を作るけど、日本語で文の動詞が最後に言う以外順番は変わっても問題がない。この二つの言語の違いがある理由は基本的に日本文化と西洋文化が違うからだ。

#### データ出典

<https://www.youtube.com/watch?v=7aMOurgDB-o>

<https://www.youtube.com/watch?v=MAw59zSbGqs>

#### 参考文献

<http://www.animelyrics.com/anime/tokyoghoul/unravel.htm>

<http://www.animelyrics.com/anime/tokyoghoul/kisetsuwatsugitsugi.htm>

Kuno (1973: Chapter 1)